

## [災害統計]

# 平成26年における車両系建設機械等による 死亡災害の発生状況

平成26年に発生した車両系建設機械及び高所作業車等に起因する労働災害による死亡者数は68名であり、前年の56名と比較して12名(21.4%)の増加となった。

業種別・機械の種類別の死亡者数は表1のとおりである。

機械の種類別では、「掘削用機械」に起因するものが26名(53.6%)と最も多く、次いで、「整地・運搬・積込み用機械」の16名(23.5%)の順となっており、この2機種で全体の約62%を占めており、その次には「解体用機械」と「高所作業車」がそれぞれ8名(11.8%)ずつと並んでいる。

また、業種別にみても、建設業の50名(土木工事業：31名、建築工事業：14名、その他建設業：5名)が全体の73.5%を占めている。

表2は、機械の種類別・事故の型別に分類

したものであるが、事故の型では、「はさまれ・巻き込まれ」が26名(38.2%)、「墜落・転落」が15名(22.1%)、次いで「激突され」の14名(20.6%)と多く、この上位3つの事故の型で全体の80.9%を占めている。

このように、車両系建設機械等による災害の傾向としては、機械の種類別の発生件数の順位については例年と変わらないが、第3位の「解体用機械」については増加の傾向にある。

業種別では、依然として建設業が圧倒的に多い。

一方、事故の型別では、「はさまれ・巻き込まれ」、「墜落・転落」、「激突され」の順で多く発生している。また、「おぼれ」によるものが1件発生している。

(情報提供：厚生労働省)

表1 車両系建設機械等による機械の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成26年)

(単位：人)

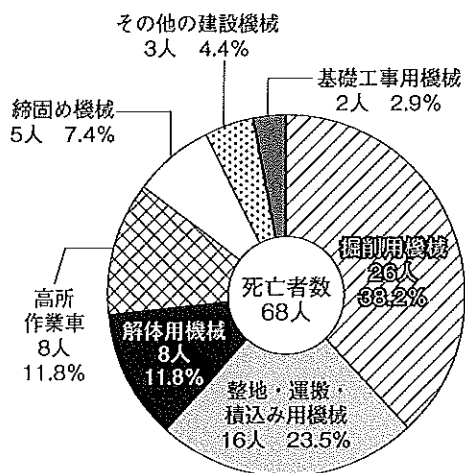
業種	製造業	鉱業土砂採取業	土木工事業	建築工事業	その他の建設業	道路貨物運送業 陸上貨物取扱業	農業 畜産業 水産業 林業	商業 卸売業	その他の事業	計
機械の種類										
整地・運搬・積込み用機械	3	3	5	0	0	1	0	2	2	16
掘削用機械	0	2	18	4	1	0	0	1	0	26
基礎工事用機械	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
締固め機械	0	0	4	0	0	0	0	0	1	5
解体用機械	0	0	1	4	1	0	0	0	2	8
高所作業車	1	0	0	4	3	0	0	0	0	8
その他の建設用機械	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
合計	4	5	31	14	5	1	0	3	5	68

表2 車両系建設機械等による機械の種類別・事故の型別死亡災害発生状況（平成26年）

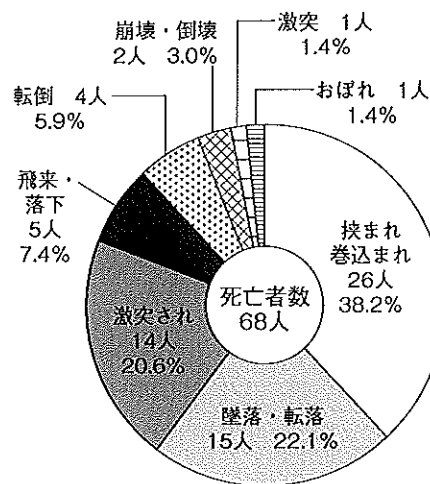
(単位：人)

事故の型 機械の種類	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	挟まれ・巻込まれ	おぼれ	交通事故(道路)	計
整地・運搬・積込み用機械	7	0	1	0	1	4	3	0	0	16
掘削用機械	4	3	0	3	0	7	8	1	0	26
基礎工用機械	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
締固め機械	0	0	0	0	0	1	4	0	0	5
解体用機械	2	1	0	0	0	2	3	0	0	8
高所作業車	2	0	0	0	0	0	6	0	0	8
その他の建設機械	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
合計	15	4	1	5	2	14	26	1	0	68

車両系建設機械・高所作業車



グラフ1：機械の種類別



グラフ2：事故の型別